

学校教育目標

共に考え、協同して課題解決に努める生徒の育成

〔本年度の重点努力目標〕

- 1 学びに向かう姿勢の定着による学力向上
- 2 人権教育の推進による道德性の向上
- 3 特別支援教育の推進と生徒指導の充実
- 4 地域を愛し、地域に貢献するふるさと教育の推進
- 5 健康・安全教育の推進

評価項目（評価指標）		評価	その根拠	考察・分析及び改善策等
そのための具体的な方策・手立て		A/B/C	No は教職員アンケートによる。 %は、肯定的な評価の割合	
1	学びに向かう姿勢の定着 ・「学びの土台づくり」に基づく授業の改善 ・学習への構えを確立させるための指導と支援 ・「対話」と「協同」による授業形態の確立と学習課題の提示 ・家庭と連携した学習の定着の時間（家庭学習時間の確保）	B	No1：生 徒 92.2% 3.5 教職員 100.0% 3.4 No2：生 徒 90.5% 3.4 教職員 100.0% 3.2 No3：生 徒 90.0% 3.4 教職員 93.4% 3.4 No4：生 徒 65.0% 2.7 教職員 93.8% 3.3 No5：生 徒 64.2% 2.8 教職員 93.3% 3.3 No6：生 徒 83.9% 3.2 教職員 100.0% 3.5 No7：生 徒 86.7% 3.3 教職員 100.0% 3.5 No8：生 徒 87.2% 3.3 教職員 100.0% 3.7 No9：生 徒 86.1% 3.3 教職員 100.0% 3.8 No10：生 徒 43.0% 2.4 教職員 50.0% 2.4 保護者 No1 93.8% 3.6 No2 85.7% 3.2 No3 69.6% 2.8 No4 54.7% 2.6 No5 62.3% 2.8 No6 55.1% 2.9 No7 78.3% 3.0 No8 35.2% 2.2	No.1～No.3「学びの土台づくり」に向かう意識を生徒も職員も高く持って取り組んだ。No.4,5については、学習に集中できない生徒がいるために、全員参加の観点が低い。特に1学年の学習規律の課題が大きい。学習規律の指導や個別指導、ICTの活用などについては、職員が根気強く実践しており、生徒も職員も評価が高く安定している。保護者アンケートでは、親から見た子どもの様子がよくわかるような項目に変更した。No1「子供は元気に登校している」が肯定 93.8%で数値 3.6 と高い数値を示している。No3～No5 での子どもの学習に向かう意識の部分が低く、家庭学習の習慣化や学習意識の向上が課題である。また、読書の習慣化も大きな課題である。「生徒の学びに向かう意識」を育てることが本校の大きな課題である。授業改善で分かる授業や生徒が意欲的に活動する授業を実践しているが、それを復習したり、自分で整理したりする意識が極端に薄い。自宅学習を拒否する生徒が多く、1・2年生で宿題の提出率が極端に低い。
2	一人一人を大切にした取組の充実 ・いじめ防止対策の徹底と早期発見、早期対応 ・考え、議論する道德授業の展開 ・生徒の自発的行動の促進と適切な評価 ・自己実現に向けたキャリア教育の推進	A	No11：生 徒 90.5% 3.4 教職員 92.9% 3.3 (No9)保護者 90.1% 3.3 No12：生 徒 87.7% 3.3 教職員 100.0% 3.8 (No10)保護者 85.0% 3.2 No13：生 徒 89.4% 3.5 教職員 100.0% 3.8 (No11)保護者 91.9% 3.2 No14：生 徒 90.5% 3.5 教職員 85.7% 3.1 (No12)保護者 91.9% 3.3 No15：生 徒 82.9% 3.2 教職員 93.8% 3.3 (No13)保護者 93.8% 3.4	一人一人を大切にする取組の全平均が生徒 3.4、教師 3.5、保護者 3.3 と全体的に高い数値である。特に保護者の 3.3 は、昨年度 3.0 から大きく上がり、保護者からの信頼の高さが伺える。生徒評価では、「いじめ対応」と「対話相談」が 3.5 で最も高かった。職員評価では、「生徒情報共有」と「いじめ防止」が 3.8 と最も高く、職員として、重点的に取り組んでいるという自負が感じられる。保護者評価は、「責任感と充実感を与えている」項目が 3.4 と最も高く、教育推進への理解が感じられた。学習規律面で課題の多い学年があるが、引き続き、細やかで丁寧な支援を心掛けていきたい。生徒の安全を守るという点では、悪天候に対する対応や学校生活における安全対策など、保護者や各種機関と連携して対応できた。

3	支持的風土の醸成 ・授業における支持的風土の醸成 ・人権教育の推進による支持的風土の醸成 ・共感的人間関係の構築に基づく、積極的生徒指導の実践 ・ソーシャルスキルトレーニングの手法を用いた規範指導の実践	A	No16 : 生 徒 89.9% 3.4 教職員 92.3% 3.3 (No14)保護者 88.9% 3.2 No17 : 生 徒 81.6% 3.2 教職員 100.0% 3.6 (No15)保護者 85.8% 3.2 No18 : 生 徒 92.1% 3.5 教職員 100.0% 3.6 (No16)保護者 91.3% 3.3 No19 : 生 徒 88.3% 3.3 教職員 93.3% 3.4 (No17)保護者 89.5% 3.2 No20 : 生 徒 91.0% 3.4 教職員 93.3% 3.4 (No18)保護者 92.5% 3.3	支持的風土の醸成の全体平均は、生徒評価 3.4、教師評価 3.5、保護者評価 3.3 であった。 これも、保護者評価が昨年の 3.1 から 3.3 に向上した。 生徒評価では、3 年生の評価が大変高いものの、1 年生の学習規律や授業態度に問題が多く、全体的には後期の評価が低下した。 職員も学年毎での達成度の違いに評価を悩む職員がいた。学年に応じた指導を行い、各学年の力をより良く伸ばす努力をしたことを適正に自己評価するように呼び掛けた結果、評価が向上した。特に「授業における個人へ声掛け」や「生徒への迅速な指導」など細やかな指導における評価が高かった。 保護者の評価においても「生徒への不適切言動への速やかな指導」や「生徒の良い発言を認めほめる」という項目が最も高く、職員の指導を肯定的に捉えていることが伺えた。
4	ふるさと教育の推進 ・総合的な学習の時間における協同学習 ・地域に誇りを持ち、地域に貢献するふるさと教育の実践 ・地域の教育資源の積極的な活用と連携 ・生徒会活動の活性化による課題解決能力の向上	A	No21 : 生 徒 89.9% 3.4 教職員 93.8% 3.6 (No19)保護者 96.3% 3.6 No22 : 生 徒 92.7% 3.5 教職員 93.8% 3.6 (No20)保護者 82.5% 3.3 No23 : 生 徒 90.1% 3.5 教職員 93.8% 3.6 (No21)保護者 91.9% 3.3 No24 : 生 徒 82.1% 3.2 教職員 93.8% 3.4 (No22)保護者 74.5% 3.0	ふるさと教育の全体平均は、生徒評価 3.4、教師評価 3.5、保護者評価 3.3 であった。 これも、保護者評価が昨年の 3.0 から 3.3 に向上した。 保護者は「ふるさと教育は大切である」項目が 3.6 と最も高く、生徒たちの発表等を見て、総合的な学習の大切さを実感していることが感じられた。 1, 2 年生は、学習意欲が低い生徒が多いため、総合的な学習を通して、自分の将来について考えたり、何のために学ぶのかを考えたりすることを通して、学びに向かう意識を育てていきたい。
5	校訓「自主 創造 敬愛」達成 ・校訓を合言葉として、学校目標「ともに考え協同して課題解決に努める生徒」の育成を図る。 ・学校生活全般において、校訓と学校目標を意識し、学校評価においてその達成状況を把握する。 ・生徒、保護者、教師が校訓の達成度を自己評価することで、現状を把握し、対策を立てて、軌道修正を行うことで、生徒のより良い成長につなげる。	B	No25 : 生 徒 87.6% 3.3 教職員(1 年) 14.3% 1.9 (2 年) 78.6% 2.8 (3 年) 100.0% 3.9 No26 : 生 徒 87.7% 3.2 教職員(1 年) 7.1% 1.7 (2 年) 85.7% 2.9 (3 年) 100.0% 3.7 (No23)保護者 85.8 3.1 No27 : 生 徒 88.8% 3.3 教職員(1 年) 14.3% 1.9 (2 年) 100.0% 3.3 (3 年) 100.0% 3.9 No28 : 生 徒 87.0% 3.2 教職員(1 年) 20.0% 1.9 (2 年) 86.7% 3.0 (3 年) 100.0% 3.8 (No24)保護者 85.8% 3.1 No29 : 生 徒 89.4% 3.4 教職員(1 年) 20.0% 1.9 (2 年) 86.7% 3.1 (3 年) 100.0% 3.7 No30 : 生 徒 87.2% 3.3 教職員(1 年) 13.3% 1.8 (2 年) 86.7% 3.1 (3 年) 100.0% 3.7 (No25)保護者 87.0% 3.2	校訓についての全体平均は、生徒 3.2、保護者 3.2、教師 2.9 であった。 生徒は、前期と後期同じであり、保護者は、前期の 3.1 から 3.2 へ向上した。職員は、3.0 から 2.9 へ低下した。 校訓については、職員評価で学年毎の達成率を出した。 その結果、1 年 1.9、2 年 3.1、3 年 3.7 であった。1 年生への達成率が極端に低いために、全体平均を下げている。 1 年生については、授業の妨げになるような行動が頻繁にあり、空き職員が見守ったり、個別対応したりしている。授業だけでなく様々な活動においても、学年全体の連帯意識が低く、2 学期はほぼ毎週、学年集会であった。職員は、授業の質の低下に悩みつつも、落ち着いた雰囲気での授業継続に、日々努力している。 1 年生の授業を大切にしている意識や学校生活で協力する意識を育てることが、本校の喫緊の課題である。